

津波ハザードマップ

この津波ハザードマップは、島根県が公表した「津波災害警戒区域(令和5年3月)」及び「島根県地震・津波被害想定調査報告書(平成30年3月)」に基き、島根県に影響がある9つの海域地震を対象として「浸水域」と「基準水位」、「浸水深」が最大となるよう重ね合わせた「津波災害警戒区域」を示しています。

想定では最大クラスの津波が発生した場合としていますが、最大クラスの津波とは、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したものであり、これより大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。



津波について

津波の特徴

- 津波は膨大なエネルギーです。普通の波とは違い、津波は海底から海面までの海水全体が「巨大な水のかたまり」となって押し寄せてきます。50cmの津波でも立っていらなくなり、1mを超えると家屋に被害が出始めます。
- 津波は何度でも繰り返し襲ってきます。津波は、長い場合は1日以上にもわたって何度も繰り返し襲ってきます。また、第1波が最大とは限りません。
- 海辺以外でも注意が必要です。津波は陸地や川を遡上します。海辺以外の場所でも津波警報・注意報に注意しましょう。

用語の解説

● 浸水域

海岸線から陸域に津波が遡上した外縁までの範囲

● 津波災害警戒区域

海岸線から最大クラスの津波が発生した場合に、住民等の生命、身体に危害が生じるおそれがある区域で、津波災害を防止するために警戒避難体制を特に整備すべき区域

● 基準水位

浸水深の水位に、建築物等への衝突による津波の水位上昇(せり上がり)を加えた水位

● 浸水深

陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地面から水面までの高さ

津波注意報・警報・大津波警報の発表基準

津波予報の種類	予想される津波の高さ		とるべき行動	想定される被害
	数値での発表(発表基準)	巨大地震の場合の表現		
大津波警報	10m超	巨大	沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。 ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう。	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。
	10m 5m			
津波警報	3m	高い		標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生する。 人は津波による流れに巻き込まれる。
津波注意報	1m	表記しない		海の中にいる人は、ただちに海から上がって、海岸から離れてください。津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近付いたりしないでください。

地震の後しばらくは、気象庁が発表する情報に注意!

- 震源が陸地に近いと津波警報が津波の襲来に間に合わないことがあります。「揺れたら避難」を徹底しましょう。
- 津波は沿岸の地形などの影響により局所的に予想より高くなる場合があります。より高い場所を目指して避難しましょう。
- 地震発生後、予想される津波の高さが20cm未満で被害の心配がない場合、または津波注意報の解除後も海面変動が継続する場合には、「津波予報(若干の海面変動)」を発表します。

★避難時に注意すること

海岸近くで地震を感じたら直ちに
高い所へ避難!!

強い地震(震度4以上)や、長い時間の揺れを感じたら、直ちに海岸から離れ、急いで高台などの安全な場所へ避難しましょう。

津波は繰り返し襲ってきます!

第1波よりも第2波、第3波の方が高くなる
ことがあります。荷物を取りに戻ったり、様子
を見るために海岸へ近寄ってはいけません。

揺れが小さくても油断しない!

揺れが小さくても津波が来ないとは限りません。震源の位置や津波注意報など、正確な情報を収集しましょう。

海拔表示板



赤色：津波災害警戒区域

黄色：津波災害警戒区域外の20m未満の場所

青色：海抜が20m以上の場所

★地図の説明

● 標高20m地形変化線

標高の目安として表示したものであり、
20mより高い所の人 は避難しなくてもよい
というものではありません。

津波災害警戒区域		
	津波災害 警戒区域 (基準水位)	3.0～5.0m未満
		1.0～3.0m未満
		0.5～1.0m未満
		0.3～0.5m未満
		0.3m未満
標高20m地形変化線		

津波ハザードマップ 索引図